

協議会だより

DHA・EPA協議会
〒151-0062
東京都渋谷区元代々木町 32-7
一般財団法人日本水産油脂協会内
TEL & FAX: 03-3469-6931
URL: <http://www.dhaepa.org/>
E-mail: dha_epa@par.odn.ne.jp

一般社団法人国際栄養食品協会 末木 一夫

2月9日～13日にかけて、2年に1回開催されるCODEX油脂部会(CCFO)が、議長国であるマレーシアのマラッカで開催された。

2年前の第23回CCFO(2013年)で、魚油の標準規格案について討議が始まった。

スイスがリーダーとなった電子作業部会で、さらにデータを収集して上記案を再検討することが、決定された。

今回の第24回会議には、消費者庁の機能性表示食品制度についての最終化がせまっている時期と重なり、残念ながら出席はできなかったが、入手した報告書を基に、簡単にその結果概要を紹介させていただく。

“Named fish oils”: 魚油の名称のひとつとして前回合意された。今回の討議で、*Salmonidae* 科である天然鮭(*Sockeye Salmon*)と養殖鮭由来の天然鮭油および養殖鮭油が、この名称グループに入ることが、認められた。なお、鮭油(salmon oil)は、天然鮭油と養殖鮭油の混合物を意味する。脂肪酸の構成成分比を、将来的には定めるために天然鮭油由来魚油の脂肪酸構成比が調査され、アラキドン酸、EPA、DHAをはじめ、17種類の脂肪酸組成比のデータが紹介された。また、クリル油(*Euphausia superba* 由来)もこのカテゴリーに含まれる。

“濃縮魚油(Concentrated fish oil)および濃縮魚油エステル(Concentrated fish oil ethyl esters)”も、国際的には大量の商取引がされている点から標準を定めるべきであることが合意された。なお、濃縮魚油および高度濃縮魚油基準としては、トリグリセリドとして少なくとも50w/w%含有という内容で合意された。

また、魚油に添加される酸化防止剤食品添加物としてのトコフェロール(INS 307 a, b, c)の配合可能上限量として、日本から提案された6000 mg/kgで合意された。この結果は、2015年3月に西安で開催予定の第47回CODEX食品添加物部会(CCFA)での討議に回付される。CCFAは、300mg/kgを配合可能上限量としている。

その他には、分析およびサンプリング法(ヒ素、p-アニシディン価およびオリゴマー)、品質パラメーター、ビタミンAおよびD量、“Named fish oils”と“fish liver oil”の脂肪酸組成等につき討議された。

《講演会スケジュール》 以下の講演会スケジュールの日程をお知らせいたします。

- ・9月29日(木)、30日(金) ILSI Japan 第6回「栄養とエイジング」国際会議(東京大学 弥生講堂・一条ホール)
- ・10月23日(金) DHA・EPA協議会 第17回公開講演会(東京・アイビーホール青学会館)

《幹事会のうごき》 平成27年2月13日(金)15:00～17:00、一般財団法人日本水産油脂協会新館において平成26年度第10回幹事会が開催された。

- ・第18回通常総会を5月20日(水)、四ツ谷にある弘済会館で開催することにした。総会のご案内については、改めて連絡いたします。
- ・平成26年度事業報告および平成27年度事業計画が、事務局より提示され了承された。
- ・総会講演会の講師について、改めて検討した。